

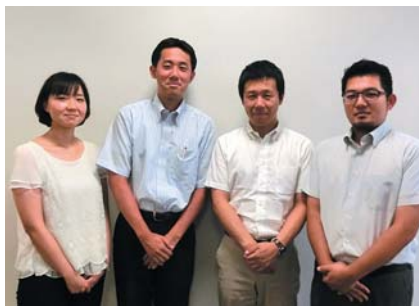


受験サブリ

# 生徒一人ひとりに適した 学習支援を可能にした「受験サブリ」

— 大阪高校(大阪・私立) —

取材・文／丸山佳子



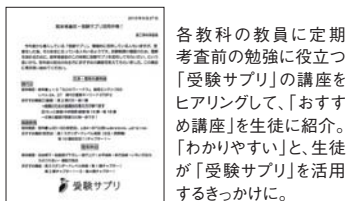
左から  
文理特進コース1年担任  
**三木 唯先生**  
文理特進コース2年担任  
**住森広平先生**  
学習支援センター長(英語科)  
**平野宏太先生**  
総合進学コース1年担任  
**池田靖章先生**

### School Data

創立1927年／普通科  
生徒数1768人(男子1188人・女子580人)  
進路状況(2014年度)大学進学319人、短大進学53人、  
専各進学90人、就職38人、その他23人  
大阪市東淀川区相川2丁目18-51  
TEL 06-6340-3031  
URL <http://www.osakashs.ed.jp/>

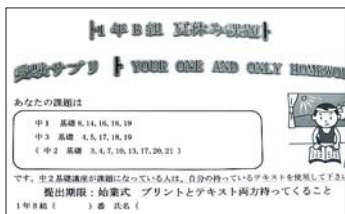
## ■「受験サブリ」の活用術

●「受験サブリ活用戦!!」を教員が作成して定期考査前に生徒に配布



各教科の教員に定期考査前の勉強に役立つ「受験サブリ」の講座をヒアリングして、「おすすめ講座」を生徒に紹介。「わかりやすい」と、生徒が「受験サブリ」を活用するきっかけに。

●文理特進コースでは、到達度テストの結果を活用して苦手克服を夏休み課題に



苦手克服のための講座を明記したイラスト入りの表紙を手作りし、講座のテキストを加えて生徒に配布した夏休み課題。「ここまでできてくれるなら、塾は必要ない」と通塾を止めた生徒もいました。うれしい反応です」と三木先生。

●総合進学コースは、夏休み課題にも使い方解説を入れ、わかりやすく



「講座を視聴して『わかる、できる』を実感すると、生徒も変わっていくので、そこまではいいねいなフォローが大切」という1年担任の池田靖章先生。生徒が取り組みやすいように、必ず使い方解説を入れるなどの工夫をして課題を出している。

●生徒からはこんな声か

「『受験サブリ』の説明会で、ある先輩が活用して偏差値50から70になったという話を聞きました。さっそく中2英語の基礎をやってみると、基本でボロボロ間違えました。そこで、中学の英語を完璧にしように講座を活用して勉強したところ、中間考査で90点以上をとることができました。また、英検前には、『受験サブリ』のリスニングを何回も聴いたことで、試験当日は「めっちゃ聴けるやん」と、心の中で笑えるくらい余裕がもてました」(文理特進コース1年、S.F君)

昨年4月、同校では学習支援センターを開設した。「目的は、生徒一人ひとりに適した自学自習の習慣づけと、基礎学力の向上です。特に『総合進学コース』は、勉強が嫌いな生徒も多い。そうした生徒をどうサポートしていくかは、待ったなしの課題でした」と、学習支援センター長の平野宏太先生は言う。

その課題解決に選んだのが、プロ講師

「講座内容は中学から難関大学レベルまで幅広く、英検などの各種検定にも対応している。しかもスマートフォンで視聴できるため、部活動で忙しい生徒も自分のペースでいつでもどこでも勉強ができ、スマホでゲームばかりしている生徒も馴染みやすい。これは、新しい学びの形だと思いました」

1、2年生全員に「受験サブリ」を導入したのは、今年4月。ゲーム感覚で使い方をマスターできるように、多くの講座を視聴した生徒に「ログイン大賞」を与えるなどの工夫をしたり、定期考査前には、出題範囲に関連した講座の視聴を課題にして活用推進を図ってきた。さらに、生徒の得意分野、苦手分野を把握できる「受験サブリ」の到達度テストを実施したことで、自学自習のきっかけづくりや、学

多様な使い方が可能な  
「受験サブリ」は新しい学びの形

到達度テストで、自学自習と  
学力向上のアプローチが可能に

習支援に取り組んでいく方針だ。

また、「講座をリピート視聴できるので、わかりやすい」との声が多く、総合進学コースの生徒も、「やればできる」と実感をもてるようになってきたそうだ。今後は「受験サブリ」の講座を授業改革にも活用しながら、より生徒と向き合う学習支援に取り組んでいく方針だ。

による2000以上の講座を自由に視聴できる「受験サブリ」だ。

「講座内容は中学から難関大学レベルまで幅広く、英検などの各種検定にも対応している。しかもスマートフォンで視聴できるため、部活動で忙しい生徒も自分のペースでいつでもどこでも勉強ができ、スマホでゲームばかりしている生徒も馴染みやすい。これは、新しい学びの形だと思いました」

一方、同コースの2年生は、自分で選択する力をつけていくことが課題。「マスターしたい講座の視聴と、10の講座を自分で探す」という夏休み課題を出したところ、どの講座を選択すればいいか相談に来る生徒が格段に増えました」と2年担任の住森広平先生は言う。

力向上のための具体的なアプローチができるようになったという。

「1年生は、夏休みまでに中学時代の苦手を克服することが大切なので、クラスの手を全員の苦手に役立つか講座視聴を課題にし、その講座の確認テキストも添付して、保護者との三者面談で渡すようにしました。これは、生徒からも保護者からも好評でした」と、文理特進コース1年担任の三木 唯先生。